

近畿本部経営工学部会 2021年10月度 定例会(研修会) 議事録

日時	2021年10月16日(土) 13:30~15:30		
場所	ZOOMを使用したWEB開催		
出席者	30名		
事前配信資料	① 研修会議事進行表	② 経営工学部会出席者名簿	
	③ 研修会資料	④ WEB参加でのお願い・連絡事項	
事後配信資料	CPD行事参加票		

1. 開会挨拶(荒井部会長)(13:30~13:40)

コロナは収まったが人の集まりには制限がある。12月は忘年会を開催できるかどうか11月に見極めて案内したい。今後も従来通りの「集合のみ」は無く、リアルとリモートの併用が一般的になると考えている。リモートでの参画機会も増えてメリットを感じている。来年度の定例会は今のスタイルを少し変える。来年4月度は、倫理を主体としたフリーなディスカッションを企画している。引き続き近畿本部ならではの企画で実施したく、皆様からのアイデア、意見を募集致します。

2. 研修会(講演)

- ・演題: 「IE エンジニアが変える IT の世界(自らの経験に基づく考察)」
- ・講師: 峯尾 啓司様 技術士(経営工学部門) オムロン株式会社
- ・概要:

日本の競争力という観点でモノづくりは重要で、技術士の経営工学部門の役割は大きいと考えている。自分は、製造業の中で生産技術(IE)を専門技術で取り組んできて、縁あって、ITの世界に飛び込み、現在でもITの業務をしている。その経験から、かつてIE業務の中で進めてきた考え(標準化とカイゼン、グローバル対応等)は、今ITの業務(Fit to Standard, グローバルガバナンス等)またDX化においても通じると考えている。

	DXの取組み SOR と SOE		経営工学と ITとのアプローチの共通性
	SoR (System of Record) ERP (統合業務システム)	SoE (System of Engagement) CRM, MA, SIS 関係者向けに情報提供	1. 標準化の取組み あらためて カイゼンと標準化の両立 構築 ERPで F2S 追及 vs カイゼンを促す プラットフォーム構築
システムの本質	エンタープライズシステム	ソーシャルビジネス	2. 標準化とカイゼン(戦略、内製)の両立 IEでは 標準型改善と目標型改善で定義 ERPでは F2S F2B で定義 DXでは SOR と SOE の両立 データでは Oneデータベース と 疎結合アーキ(分散) 両立
コア要素	事業、日、コミットメント	洞察、アイデア、ユビクス	3. データ重視 腕力でIEデータとって、分析 問題解決 IOTで データは自動で取れる様になってきた 問題解決もやり易くなるはず
価格	唯一	オープン	4. グローバルへの取組み 集中か 分散か ガバナンス(権限統制)か コラボ(協調)か
パフォーマンス基準	正確性 安全性	迅速性、アクセス容易	
ユーザービリティ	システム教育必要 フォローアップも必要	コンシューマーの経験で対応可	
アクセス性	制限 制約	オープン	
利用維持	永続的	短期的	
ポリシー	セキュリティ	プライバシー	

質疑応答: Q) 質問、A) 回答

Q) 日本の暗黙知のモノづくりの高度技術や匠(たくみ)の技術は、IE&IT 的観点からも活かしていただけますか? 中小企業が有しているこの種の技術をより活かせる方法を思案しています。(新居技術士)

A) IE 全体の課題と捉えています。IT メンバーも、観点を上手く活かすことができていると思いません。大量生産が本当に良いのかも検討が必要と考えています。

Q) 改革を進めるにあたり、ビジネスモデルや技術面の変革以外に、組織構造、組織風土などが重要になると思います。それらについて、ご経験や今後、重視する点をお聞かせください。(北川技術士)

A) IT側ではなく、製造が主体になって改善する必要があると思われます。経営側はビジネス上の競争力を考えるべきだと思います。

Q) VUCA の時代、標準化の限界を見ているように思います。AI・IoT の世界の中で、人的資源の役割は自ら考えて判断することではないかと考えるのですが、どのようにお考えでしょうか。(坂井技術士)

A) 現実に DX と AI に Gap があると思います。現場は簡単には AI に置き換わらないでしょう。現場でおきていることを改善するリソースを増やしていかないといけないと思います。

Q) 中小企業への支援が必要とのお話がありましたが、まずどの分野の支援を行うのが有効とお考えでしょうか。(杉山技術士)

A) 中小企業の現実、基本的な IT が使われておらずリソース少ないです。CIO Rounge 等を通じて(中小企業 IT の)合理化に繋がりたいと思います。

3. 日本技術士会統括本部関連連絡(14:50~)

・CPD 講演会の開催方式の統一ルールについてメールが配信されたので、各自ご確認下さい。(荒井部会長)

・CPD 行事の「新申込システム」(参加費支払い対応)が開始されています。近畿本部は旧システムを使用しており、移行時期についてまだ案内はありません。(荒井部会長)

・2021年9月8日に文部科学省から新しいCPD活動実績の登録方法が発令されています。会員は無料で登録できます。今年度は「倫理」の登録は免除されています。(坂井技術士)

4. 部会活動報告及び諸連絡事項 など

・当経営工学部会の研修企画ガイド(第2案)を共有。(荒井部会長)

来年度は単独講演会に加え、フリーディスカッション(4月、8月、12月)を取り入れる予定です。

意見、アイデア等ございましたら、ご連絡下さい。

・2021年10月以降の主な予定を共有。(荒井部会長)

5. その他意見交換等

・招待メールについて 来月から前日までに届くように発信しますので御確認下さい。(荒井部会長)

・12月の講演は時間の半分程度をワークショップ形式にさせて頂く予定です。(北川技術士)

6. 閉会挨拶(~15:30) 担当幹事(神原)

・講演中の「IE視点のDX化への適用、有用性」について、現場とITを繋げるための人材活用が重要であると感じました。国内の人事制度はメンバーシップ型がメインですが、今後はジョブ型の採択が多くなってくると考えられます。経営工学技術士の活躍の場も広がると想定されますので、当該例会や研修会等で自己研鑽を継続していく所存です。

(文責:神原典広)